

WINDOW



日米草の根サミット・オープニングセレモニーの様子
ジョン万次郎を救ったホイットフィールド船長の5代目子孫ボブさんに大漁旗を贈呈する土佐清水市の子供達

2011
Autumn
No.55

特集 日米草の根交流サミット in 高知

- 南加高知県人会青少年交流プログラム ～自らのルーツを訪ねて～
- 2011ジュニア国際大学
- 在住外国人に南海地震に備えていただくために作成された出版物の紹介
- 新しい国際交流員等の紹介
- A letter from abroad
藤田 かおり(ケニア共和国)
- 外国語で相談できる定期相談会をご存知ですか？
- INFORMATION BOARD

在住外国人のための英語版生活情報冊子「Tosa Wave」のブログを開設
国際ふれあい広場2011のご案内

南加高知県人会青少年交流プログラム

～自らのルーツを訪ねて～

平成23年8月3日から8月13日にかけてアメリカから2人の若者が高知県を訪問しました。これは、アメリカ・ロサンゼルスにある南カリフォルニア高知県人会が2009年に創立100周年を迎え、県人会活動の停滞と青少年の母県意識の薄れを心配した県人会が高知県に青少年を派遣して交流することを企画し、実現したものです。

来高されたのは、日系四世の塚本シェルビさん(18歳)と石橋エヴァンさん(16歳)のお二人です。特に、シェルビさんにとっては初めての日本・高知訪問となりました。

高知滞在中は、ホームステイでお世話になりながら、土佐弁のレッスンやよさこい鳴子踊り(正調)への参加、地元の



「よさこい鳴子踊り」高知市役所チームに参加 「書道体験」上手に書けました。講師の土居先生と 県立大学・橋尾教授による「土佐弁レッスン」
学生との交流、高知の歴史の学習、史跡見学など自分たちのルーツである高知の夏を満喫しながら多くのことを学びました。



「知事表敬訪問」
(左から)塚本シェルビさん、石橋エヴァンさん、
パウエル律子さん、橋井昭六氏、尾崎知事

♥塚本シェルビさん感想◆

日系四世になる私は、このプログラムに参加するまで自分のルーツである高知県に対する母県意識が低く、ただアメリカの家族や友人と離れることだけが不安でした。しかし高知では、ホストファミリーの皆さんに優しく家族の一員のように接していただき、親しくなることができました。また、ボランティアガイドの方に高知の様々な場所を案内していただき、高知について多くのことを学びました。土佐弁と書道体験も大変興味深く、高知県の有名なよさこい祭りに参加できたことも大変うれしかったです。



「全員集合」ホストファミリーの中村さんご一家と

そして、自分の親戚に初めて会うこともでき、私の高知訪問は素晴らしいものになりました。

このプログラムは、忘れる事のできないたくさんの素敵な思い出とともに、母県・高知を身近に感じさせてくれました。またいつか高知県に戻ってきて、ホストファミリーの方や友達に会いたいです。

♠石橋エヴァンさん感想♣

僕にとって高知訪問は3回目になりますが、この訪問が一番心に残るものになりました。ホストファミリーの森本さんご家族にとっても親切にしてください感謝しています。

高知ではたくさんの歴史を学ぶことができました。高知は自然が多く、美味しい食べ物も豊富で、回転寿司レストランで食べた味噌ナスのお寿司は忘れられません。また、アニメで有名なアンパンマンが高知で生まれ、戦争中に飢餓で苦しんだ作者自身の体験をもとに作られたということを知ってとても驚きました。短い高知滞在でしたが、とても楽しく貴重な経験となりました。またいつかホストファミリーや友達に会いに戻ってきたいです。



「二人は食欲旺盛」ホストブラザーの仁晟君と



2011 ジュニア国際大学

6月25日(土)、いの町天王にある県立青少年の家大集会室に4年生から6年生までの総勢22名の小学生が集まり、1日かけて世界と日本のつながりについて学習しました。

午前の授業では、吉岡栄作先生(「国際理解の風を創る会」所属)が、コンビニの「幕の内弁当」を題材に子供たちに各食材の産地を考えさせ、国産でないものについてはその国名を当てさせる授業を行いました。海外産の食材が思ったよりも多いことに子供たちは驚いていました。授業の最後に食材輸送にかかるコストなど環境や経済への影響についての意見発表も行われました。



この食材は中国?アメリカ? (地図を広げて生産国の上に食材カードを置く)

午後はまず、中国、韓国、インドネシア、フィリピン、デンマーク出身の県内在住外国人と現地の遊びをその国の言葉で体験した後、横内悠先生(JICA国際協力推進員・愛媛駐在)の指導により、子供たちに身近なものを使ってボール作りを体験してもらいました。横内先生が暮らした中米の国・ベリーズは貧しく、ボールを買えない現地の子供たちはペットボトルと新聞紙でボールを作りサッカーなどをしていたそうです。授業の終わりに子供たちは作ったボールでボール獲り競争を楽しみました。

来年も子供たちの視野がぐっと広がるような授業を計画したいと思います。

在住外国人に南海地震に備えていただくために 作成された出版物の紹介

当協会では平成19年度から在住外国人のための南海地震対策に力を入れています。今年3月の東日本大震災発生以降、県内外から当協会発行の防災関連の出版物に関する問い合わせが増えています。そこで以下では、各出版物の内容や特徴を改めて紹介し、県内在住外国人や関係者に広く周知し、在住外国人も自ら南海地震などの大規模災害に備えていただければと思っています。

1) 南海地震に備えるための6ヶ国語版パンフレット&ホームページ

英語・中国語・韓国語・タガログ語・インドネシア語・ベトナム語による啓発冊子です。県発行の「南海地震に備えちゃよき!」などをベースに減災対策に重点を置いています。同内容を当協会HPにも掲載し、中国語については音声で聞くことができます。



2) やさしい日本語版の南海地震啓発パンフレット

1)の6ヶ国語版パンフレットのやさしい日本語版です。やさしい日本語のレベルは日本語能力検定試験4級レベルを基本とし、小学校低学年が読める程度の平易な日本語を使っています。



3) 6ヶ国語版折りたたみ式災害用携帯カード

発災後2~3日の間に必要な情報をコンパクトにまとめた名刺サイズの折りたたみ式災害用携帯カードです。災害時に必要な個人情報を書き込める欄もあります。



4) 6ヶ国語版の応急手当マニュアル

救急救命講習テキストの心肺蘇生法、止血法、固定法、搬送法を中心に6ヶ国語に翻訳したものです。消火器の使い方と地震体験車に乗車する際の注意点も翻訳し、地域の防災訓練で即使用可能なレイアウトに仕上げました。





日米草の根交流サミット・高知大会2011報告

嵐の後の大成功！

CIE事務局長 轟木 ひろ子
(巻末プロフィール参照して下さい)

日本とアメリカで毎年交互に開催している「日米草の根交流サミット」が、21回目にしてやっと高知で開催されることが決定したのは2009年初頭。この「草の根サミット」は、日米の普通の市民が、ホームステイや文化交流をとおして友情を育み、理解を深めることを目的に、日本とアメリカで交互に毎年開催しているものだ。

この大会の原点は、ジョン万次郎こと中濱万次郎と、彼を救助しアメリカで教育の機会を与えたホイットフィールド船長。彼らの子孫が代々、170年に渡って友情を温めていることにある。その万次郎の故郷である高知で、21年目にしてようやく草の根サミット開催が決定したのだ。

当初、150人から200人のアメリカ人参加者を目指していたが、今年3月初旬の時点では「ひょっとしたら200人を超えるかも。そうすると、式典会場やホストファミリー数に無理がでる」と、高知の実行委員会(名誉会長:尾崎正直知事、会長:橋井昭六氏)と冷や冷やしたものである。「あまり外国人が行かないところ」「自然がいっぱい」、という印象が、草の根サミットファンにはたまらない魅力だったらしい。

しかし、3月11日、その様子が一变してしまった。アメリカからのサミット参加問い合わせのe-mailは、ぱったりと止み、その代わりに東北在住の過去サミット参加者の安否を問う内容に変わった。他行事の自粛ニュースが流れる中、草の根サミットをどうするのか。そうこうするうちに、すでに参加申込をしていたアメリカ人の中から、原発事故の影響を恐れたキャンセルが出始めた。

思えば、2009年の「みやぎ大会」はリーマン・ショックと新型インフルエンザ、2007年の「能登大会」直前には能登半島地震、2003年の「千葉大会」ではSARS感染症、2001年の「広島大会」の1ヶ月前には同時多発テロと、今世紀に入ってから日本で開催する大会の前には、おおかた「大嵐」が吹いてきた。しかし、高知大会の嵐は、これまでの中でも最も激しいものだった。3月28日に高知県庁で開催された実行委員会では、おそらく半数以上の委員は「延期」を覚悟していたのではないだろうか。それを覆したのは、熱心な日本ファンであるアメリカ人からの「こんな時だからこそ実施すべき」というe-mailと、「来てもらえるなら、こんなに喜ばしいことはない」という高知側の言葉だった。

大会参加者数: アメリカからの参加者 95名
参加者総数 2,295名(県外からの参加者、ホストファミリー、ボランティア、ゲスト等含む)

イベント別参加者:

- | | |
|------------------|------|
| 1) オープニングセレモニー | 700名 |
| 2) オープニング・レセプション | 200名 |
| 3) 地域分科会プログラム協力者 | 300名 |
| 4) クロージング・セレモニー | 300名 |
| 5) サミット同窓会参加者 | 50名 |

●スケジュール●

6/28 (火)	参加者、日本到着	高知市内ホテル泊
6/29 (水)	土佐清水市でオープニング	足摺岬のホテル泊
6/30 (木) ~7/2 (土)	地域分科会	ホームステイ
7/3 (日)	高知市でクロージング	高知市内ホテル泊
7/4 (月)	高知から出発	

かくして、半減はしたものの95名の方々が来日。皆、日本が大好きで、日本で友人を作りたい人ばかり。6月29日の土佐清水市の市民文化会館で開かれたオープニング・セレモニーは、渭南病院有志による足摺踊りで始まり、足摺岬小学校の全児童による舟歌・太鼓、中浜獅子舞など、地元の芸能が披露された。また、万次郎を救ったホイットフィールド船長5代目のボブ・ホイットフィールドさんには、土佐清水の子ども達から救助のお礼を込めた「大漁旗」が贈呈され、そのボブさんと万次郎6代目にあたる中村明日香ちゃ

ん(10歳)との間で、恒例の地球儀の交換も行われた。同日夜、足摺岬のホテルで開催されたオープニング・レセプションは、畳敷きの大広間で、靴を脱いだ立食パーティ。「ペラ屋敷」などボランティアによる手作りの地元料理も振舞われ、参加者達はアットホームな雰囲気感激しながら、心から楽しんでいた様子だった。

6月30日からの3泊4日の「地域分科会(ホームステイ・プログラム)」は、草の根サミットのハイライト。参加者達は、県内各地に散らばり、ボランティアの手作りプログラムを堪能。学校訪問、鯉のタタキ作り、川くんだり、料理作り、和紙作りなど、数々の体験を通して高知の文化を知り、ホストファミリーやボランティアと言葉の垣根を超えて友情をはぐくみあった。

事務局を担う者にとって、地域分科会を終えてクロージング・セレモニーに集まってくる参加者の顔を見るのは、何よりも楽しみなものだ。地域に行く前の、期待しながらもちょっと不安そうな顔が、この時には満面の笑み。言葉の障壁があるはずなのに、ホストファミリーとニコニコと何やら話をし、ちゃんと通じているのだから。ある参加者は、「草の根サミットは魔法です」と表現していた。観光とは全く違う、心の絆を結ぶのが草の根サミット。そして主役は、ホストファミリーをはじめとした地元のボランティアと、海を渡ってやってきた参加者達である。クロージング・セレモニーが開催された県立牧野植物園では、たくさんのホストファミリー達が、アメリカ人参加者が乗ったバスに向かってお別れの手を振る光景が印象的だった。

「これまでで最高の草の根サミット大会だった」というリピーター参加者の感想を、万次郎もきっと大満足で聞いたことだろう。嵐に会い、困難を乗り越えて多くの功績を残した万次郎。今回も私たちに、嵐と、苦労と、その後の大成功を呼んでくれた。向かい風の中でも、心配りの行き届いた準備をしてくださり、温かく参加者を迎え入れてくれた万次郎の故郷・高知の皆様、この場を借りて心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました！



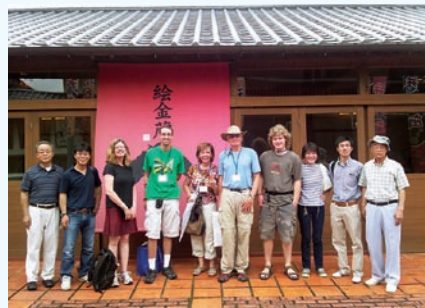
ホットフィールドさんに大漁旗の贈呈



足摺岬小学校の皆さん。オープニングにて

地域分科会開催地域：

奈半利町、安芸市、香美市、香南市、南国市、高知市(4プログラム実施)、越知町、佐川町、中土佐町・久礼、中土佐町・大野見、土佐清水市



絵金蔵にて



土佐文化を満喫



鯉のタタキ作りも体験



牧野植物園でよさこいワークショップ



ホストファミリーとお別れ。バスの車窓から

※来年の草の根サミットは、アメリカの北部テキサス州で8月27日から開催されます。年齢・語学レベルに関係なくどなたでも参加できます。ぜひ、ご予約ください！

新しい高知県国際交流員の紹介

Hello. 私はリサ・ヤスタケと申します。

今年の8月から高知県の国際交流員として着任しました。

一見日本人に見えますが、実はアメリカ人です。両親は二人とも日本人で家では日本語を話していたものの、生まれも育ちもハワイで、学校ではもちろん英語でした。高校の時にカリフォルニア州へ移住し、カリフォルニア大学バークレー校で日本語と日本文化を学びました。また、東京の一橋大学に一年留学した経験もあります。

実は、私にとって高知は初めてではありません。2009年8月から高知市の国際交流員として来高して以来、高知で暮らしてきました。しかし、様々な地域へ行き、様々な人に会い、様々な体験をしてきて、高知の魅力を既に知っていると思いきやまた新しい発見があり、以前よりもっともっと高知が好きになりました。

大好きな高知のために貢献していけるように、国際交流員として一生懸命がんばりたいです。よろしくお願いします。



リサ・ヤスタケ

(アメリカ・ハワイ出身)

高知の自然に魅せられて～高知で活躍する在住外国人の紹介～

高知には、日本の大きな都市にはないきれいな山や川、海があります。そして、おいしくて新鮮な食べ物も。私は、高知に来てから、美しい季節の移り変わりが分かるようになりました。

季節によってたくさんの祭りがあるのもおもしろいです。

高知市内だけではなく、高知の山や田舎には楽しめる場所がたくさんあります。例えば、車でドライブしていると、古いお寺、桜の山、梅の谷、棚田の彼岸花、蛍の飛び交う川辺、村の人が大事にしている神社、そこでの小さな祭り。

そんな田舎の小さな祭りに行くと、地元の人は温かく迎えてくれます。優しく教えてくれるので、初めてでもいっしょに踊りができます。そして、皆口々に、面白い珍しい料理をすすめてくれます。いっしょに食べたり飲んだり踊ったり、とても楽しいひと時です。

みんな好きな田舎を見つけたら、空き家を探して引っ越そう。

近所の人は、恥ずかしくてすぐに話してくれない人もいますが、いっしょに祭りに参加したり、ボランティアをしたりするうちに、すぐ友達になれます。

畑で、自分の手で土に触れ、野菜を作ったり、鶏を飼ったり、自然の生みだすものを食べる、高知に住んでいるからできるすばらしい生活です。



ヴェネッサ・ウィンボン(右側)

(オーストラリア・シドニー出身)

ありがとう高知！～高知での留学を終えた高校生の紹介～

私の名前はチュティマー・ブンボンです。ギップと呼ばれています。

高校3年生です。去年の夏から日本に留学して、高知中央高校で1年間学びました。ホストファミリーは、お父さん、お母さん、第2人、妹の5人家族の町田家でお世話になりました。

1年間でいっぱい日本の文化を学びました。たとえば、茶道や書道など日本の独特な文化に触れることができました。また、高知県の夏の大きなお祭りのよさこい祭りにも参加しました。とてもいい思い出になりました。

私が高知県に来て面白かったのは土佐弁です。最初、学校の友達や家族が話す土佐弁を聞いて、標準語と発音とかが違って聞き取れなかったりして大変でした。

けれど、土佐弁にも慣れて、自分でも話すことができるようになりました。友達にたくさんの土佐弁を教えてもらいました。

私の好きな日本の食べ物はうどんです。麺が太く、とてもおいしいので好きです。

日本に来てたくさんの経験をすることができました。

いろんなところに行けてとても楽しかったです。

初めて学校に行ったとき、まゆという友達できました。日本の文化やマナーなどいろんなことを教えてくれました。クラスもずっと同じで、遊びに行ったり本当に仲良しです。他にもたくさんの友達できました。

タイに帰ったら日本で学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。



チュティマー・ブンボン(左側)

(タイ・ホアヒン出身)

A letter from abroad



ケニア共和国からのたより

「イディナーデ(ごきげんいかがですか) ?」
「アディマベール(とてもいいです)」

JICA青年海外協力隊
エイズ対策

藤田 かおり



首都ナイロビから乗合ワゴンを乗り継ぐこと西へ6時間、ここニャンザ州ラチュオニョ県では95%を占めているルオ族の言葉です。赤道まで車で3時間ほどのところに位置していますが、標高1,400m、そして現在冬の雨季(3月～8月)、朝晩は上着が必要なほど涼しくなります。

さて、皆さん『カンガ』をご存知でしょうか？これは110cm×150cm布で、色とりどりの模様や絵、作られた国のことわざや素敵な言葉が入り、一枚の柄としてプリントされています。ナイロビには希少価値の高いレアカンガを取り扱う大きなカンガショップもありますが、どこの小さな町のマーケットでも必ず目にすることができます。テーブルクロスや壁掛け、風呂敷、巧く結べばバッグなど用途は様々。ビーチで水着の上から鮮やかなカンガをオシャレに巻けば、みんなの視線は釘付けです！ワンピースやツーピースのドレスを作り、アクセサリやマニキュア、靴、バッグなどと色を



合わせてオシャレを楽しんでいる女性もいます。また、柄を活かしたバッグやポーチ、ベルトなども売られています。お土産に持ってこいのこのアイテム、田舎の町で一般的に見られるのは赤ちゃんや、大きな荷物をくるんで背負ったり、頭にのせる荷物のクッション材にしている女性を目にします。何より多く見るのは、使いこんで色あせたカンガを腰に巻き、結び目にお金をしまい込んでいる女性。ケニアのママたちの変わらないスタイルです。さあ、みなさんならこのカンガをどのように使いますか？

外国語で相談できる定期相談会をご存知ですか？

当協会では23年度に予約なしで外国語(英語・中国語)で相談できる定期相談会を実施することにしました。在住外国人がお困りの際は、是非、当相談会を紹介し利用を勧めてください。

日 時:平成24年2月2日までの毎週木曜日15時～17時
(但し、11月3日、12月29日、1月5日、1月12日は除く)
場 所:当協会研修室
利用料金:無料 ※予約不要・秘密厳守



英訳

Lifestyle consultations in English and Chinese have been set up for foreigners living in Kochi
Dates: Every Thursday 3~5pm until 2 February 2012 (except 3 November, 29 December, 5 & 12 January)
Place: kenshuushitsu (study room), Kochi International Association (KIA)
*Available free of charge
*No reservations needed
*Confidential

中国語訳

本協会定期举办可用汉语和英语咨询作答的商谈会。

时间:截至2012年2月2日 每周四15:00~17:00
(除11月3日、12月29日、1月5日、1月12日)
地点:高知县国际交流协会 研修室
费用:免费

☆无需预约。请直接前来。☆
★严守秘密★

INFORMATION BOARD

在住外国人のための英語版生活情報冊子「Tosa Wave」のブログを開設しました

平成17年度に初版が発行されて現在42号に至った「Tosa Wave」ですが、ローカルな話題を英語で分かりやすく伝えるをモットーに、在住外国人のみならず英語を勉強する高校生にも読まれています。

最近では、「土佐茶」や「室戸ジオパーク」など、高知県が地域活性化のために取り組むテーマにも焦点を当て、それに携わる人々への取材結果をもとに、外国人にもその意義などが伝わるような冊子づくりを心掛けていますが、情報通信技術を活用して世界中に高知の魅力を発信するため、ブログを開設することにしました。

ブログでは冊子記載の情報はもちろん、在住外国人が興味を持ちそうなイベント情報をできる限り多く掲載するようにしています。また、冊子ではスペースの都合で載せることができなかった写真や地図情報も掲載し、見た目とともに利便性にも配慮しています。

随時投稿者を募集しています。土佐女子中高等学校のESSクラブが加入し定期的に投稿しています。彼女たちの記事にも注目してください。

WEB版→ <http://tosawave.blogspot.com/>

携帯版→ <http://tosawave.blogspot.com/?m=1>



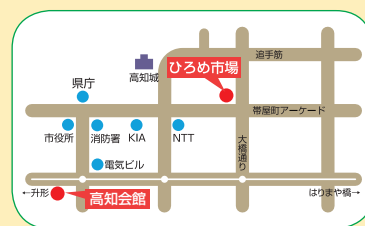
WEB画面



携帯版QRコード

今年も「国際ふれあい広場2011」を開催します！

今年も国際協力・交流に関する総合イベント「国際ふれあい広場2011」を下記のとおり開催します。今年は6月から7月にかけて県内各地を会場に実施された「日米草の根交流サミット高知大会」の事業報告会を兼ねて、共催団体である「財団法人万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センター（CIE）」事務局長の轟木ひろ子氏による記念講演会を予定しています。お誘い合わせの上ぜひお越しください。



主催 公益財団法人高知県国際交流協会
JICA四国(独立行政法人国際協力機構四国支部)

日時と場所 10月22日(土) 15:00～16:30 高知会館(記念講演会)
10月23日(日) 10:00～17:00 ひろめ市場イベント広場

催物内容 **22日(土)**.....
● 轟木ひろ子氏(CIE事務局長)による記念講演会(15:00～16:30)
講演テーマ「高知の温かさを世界に！高知が第2の故郷になった外国人達
日米草の根サミット・高知大会が伝えたぬもり」

23日(日) 10:00～17:00 ※飲食関係は売切れ次第終了です。.....

- 中国家庭料理(肉饅・餃子)の販売
- 韓国料理(チヂミ・キムチ等)の販売
- グアテマラ・ラオス民芸品展示販売会
- JICAボランティア相談会
- 県出身の海外ボランティアの紹介
- 国際協力・国際交流パネル写真展
- その他、中国・アフリカの踊り、等

※出展団体一覧(順不同)

- ① 在日本大韓国民団高知県地方本部 ② 中国帰国者の会 ③ 高知よさこい連
- ④ グアテマラ生産者支援ネットワーク「みるぼ」 ⑤ 特定非営利活動法人Brain
- ⑥ 高知県青年海外協力隊OB会 ⑦ 高知県中南米親善協会
- ⑧ 第21回日米草の根交流サミット高知大会実行委員会
- ⑨ 国際協力機構四国支部(JICA四国) ⑩ 高知県国際交流協会

詳しくは、当協会HPをご覧ください→ [高知県国際交流協会](http://www.kochi-kia.or.jp/)

轟木ひろ子さん

プロフィール

財団法人万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センター事務局



航空会社勤務を経て、NGO(NPO)の世界に入る。国際人権NGOであるアムネスティ・インターナショナル(1977年ノーベル平和賞受賞)の日本支部にてキャンペーン・オフィサー、プレス・オフィサーを務めた後、国際協力NGOの(財)日本フォスター・プラン協会(現在:(公財)プラン・ジャパン)にて広報室長。1998年9月から1年間ワシントン大学留学。帰国後は、NPO法の成立を市民側から促進してきた「シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会」のプログラム・ディレクターとして、おもに支援税制の成立・改正運動、米国のNPO税制調査などに関わる。2008年4月より日米草の根の市民交流を促進する(財)万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センターの事務局に加わり、現在は事務局長。



昨年の国際ふれあい広場の様子

